

ニイタカスゲ *Carex leucochlora* Bunge var. *aphanandra* (Franch. et Sav.) T.Koyama

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有性階級 1、総点 11。愛知県では生育地が限られている。

【形態】

小型の多年生草本。匍匐枝はなく、株を作る。愛知県のものでは茎は高さ 6~18cm、基部の葉鞘は淡褐色~褐色で、後に繊維状になる。葉は細い線形、幅 1.5~3mm である。果期は 5~6 月、小穂は 3~4 個で最下のは根際に、他は茎頂部に集まってつき、頂小穂は雄性、長さ 4~7mm、鱗片は淡褐色で中央は緑色となる。側小穂は雌性で長さ 3~8mm、3~7 個の果胞をつける。苞は短い鞘があり、葉身の先端は頂小穂の先端と同程度になる。果胞は長さ 2.5~3mm、先端は次第に細くなり、まばらに毛がある。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (畑佐武司 8411, 2012-6-8)、4 津具 (鈴木 学 834, 1983-5-8)。

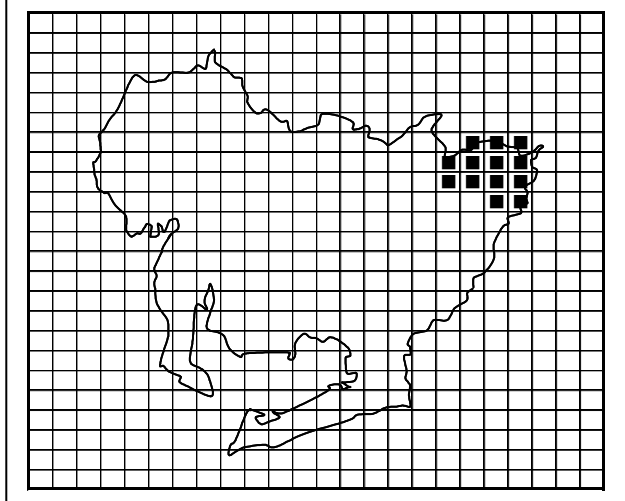
【国内の分布】

本州 (主に太平洋側)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

落葉広葉樹林の林床や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県内では茶臼山と面ノ木峠で確認されているだけであるが、そこでは個体数は比較的多い。現在のところ特に減少してはいないが、ニホンジカの食害により衰退する可能性はある。

【保全上の留意点】

食害が顕著になった場合は、防護柵の設置を検討する必要がある。

【特記事項】

メアオスゲからは苞葉が短いことで、イトアオスゲからは根際に雌小穂をつけることで異なる。勝山 (2005) には「葉は大きさの割に幅が広く、ふつう幅 2~3mm、ときに 4mm に達し……」と記述されているが、愛知県のもの葉幅は他のアオスゲ類とそれほど異ならない。今まで「メアオスゲのような、イトアオスゲのような……」と思っていた植物で、勝山氏の同定に従い、本変種にあてておく。

【引用文献】

勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.240. 文一総合出版, 東京.

【関連文献】

平新版 1 p.321.